

(社福)後志報恩会仁木地域職員研修

平成29年6月15日(木曜日)

理事長 山崎 忠 顯

(理事長就任 平成19年12月から継続)

研修テーマ みんなで「見える化」を図ろう

法人の基本姿勢と理念

信頼と感謝とロマン

一人ひとりが安心して共に生活出来る福祉コミュニティの創造

～安心と笑顔でつなぐ みんなのしあわせ～

『法人の目的 ～人間のしあわせづくり～』

地域こそしあわせづくりの原点

障害のある人もない人も共に生きられる社会

銀山学園創始者 野村 健



| 概 要 | 法 人 の 歩 み |
|---|--|
| 銀山学園の創始者 野村 健の懊悩・履歴 | * 悩み苦しんだ半生 その克服(病気と吃音) * 札幌市福祉係長 37歳退職で施設創設 * スタート当時額1億円の借金・現在3億6千万 * 昭和45年5月 銀山学園の開設 |
| 現山崎理事長の履歴 初代 渡 寛一 2代 佐野 康治 3代 野村 健 4代 山崎 忠顯 | * 札幌市福祉事務所(保育所・児童・母子寮担当) 生活保護ソーシャルワーカー・青少年指導員 * 27歳で退職 ・ 銀山学園～創設期事務長、指導課長 ・ 大江学園～開設期施設長 ・ 和光学園～移管期施設長 * 野村 健レポート作成中(委員長:大洞忠義) 委員会:28年2月から13回開催、本年9月出版予定 |

| 概 要 | 法 人 の 歩 み |
|--|--|
| 社会福祉法人 札幌報恩会からの 無償分離独立 認可 平成元年8月31日 | *札幌報恩会～大正7年11月 創立者 小池久一 99年継続 当時 精神薄弱児施設 北海道第一号 *国の北海道養護学校・第一号 校長 山下 充郎 *昭和45年5月銀山学園設立 利用者18名移動する |

| 概 要 | 内 容 |
|---|--|
| 1 みんなで 「見える化」への アプローチ 法人の「可視化」 | *目的の明示、意識の共有、各事業所に理念などを文書化し掲示する *利用者・保護者・職員の意識の共有を目指す *絵図の作成に当たっては職員の声を軸にする *わかりやすい絵図を作成し、事業所に掲げる |
| 2 法人の コミュニケーション面談 と メンタルヘルスの具体化 を検討する | *コミュニケーション面談を全職員に対して定期的を実施（自己評価）、職員がふりかえり、気づき、課題を見つけ次につなげるために *全職員に対してメンタルヘルスの検討（現在、銀山学園のみストレスチェックを実施） 北海道労働保健管理協会 |
| 3 評価のねらい | 1 運営の適正化、情報開示 2 職員の質の向上（自己評価を生かす） 3 支援方法 個々に合わせた支援内容、いかに利用者の意向をくみとるか |
| 4 その人らしく 笑顔で生きる (意志決定支援) | *重度重複・発達障害他、雇用、高齢化、生きがいづくり *生涯をとおしての安心づくり、ライフステージ *大切な心の問題・安心を抱ける環境 |
| 5 難しい言葉を やさしく伝える | *難しい言葉、話をわかりやすい理解しやすい内容にかえやさしく、伝える *ていねい、ゆっくりと、わかりやすい話し方を心がける |
| 6 法人として幅広い 情報の取得に努める。 社会情勢の習得 | *朝日新聞・毎日新聞・日本経済新聞・北海道新聞等の 定期購読 *会議等で資料の活用を図る |
| 7 インターネットの活用 | *インターネットで開示中（運営の透明化） し り べ し ほ う お ん か い 社会福祉法人 後 志 報 恩 会 に関して内容を見る |

法人制度改革で使われる難解用語例

- ガバメント ○コンプライアンス ○エビデンス
○ディスクリージャー ○イノベーション ○モラルハザード